

株式会社 アルム

【事業概要】「こんなものをつくりたい」という顧客の要望に、企画から生産、デリバリーまで、ワンストップで提供
コスト削減、多品種小ロットを実現

ピンチをチャンスにかえる！ 自社ブランド製品を開発販売

HISTORY



企画開発担当の澤野裕美取締役

食をテーマに原料の買い付けから 包装までワンストップで提供

平成9年に創業したアルム。食をテーマに、原料の買い付けから、企画開発、生産、包装まで、ワンストップで提供している。主力となるのは業界大手スーパーや百円ショップ、食料品店向け卸売業者のPB商品だ。

前職は商社で機械の輸出を担当し、世界各地を飛び回っていたという大村公宏社長。「日本の食品自給率は40%しかない。今後、食品輸入業は伸びていくに違いない。しかも、地元である静岡には顧客となる食品会社がたくさんある」と将来性を感じて食品輸入業界に新規参入したという。ルイボ스티ーにはじまり、紅茶、ビタミンC、コラーゲンなど、顧客の要望に合わせてさまざまな原料の輸入を手掛けてきた。徐々に、加工を手がけるようになり、最近は商品の企画開発まで行うなど、事業の幅を広げている。

企画開発部門では女性スタッフが中心となって活躍。澤野裕美取締役は「自分たちがほしいもの」を基準に、女性ならではの視点を大切に組み込んでいると話す。

TURNING POINT



秤型のフィーダー式計量機

包装資材を無駄にしない 生産工程を模索

競争が激しいこの業界で生き残っていくためには、顧客が求めるニーズにいち早く、かつ的確に対応することが求められる。「以前、食品表示の記載に修正が出たのですが、百円ショップのパッケージは訂正シールで対応することが許されず、古い資材はすべて捨てて、新しい資材を印刷し直しました」と振り返る大村社長。「新商品が出る度に数万単位で包装資材を作ります。余った資材は捨てることになるので、無駄にしない方法はないかと思ったのが新たな包装システム開発のきっかけです」と語る。

従来の生産工程は、パッケージの印刷は印刷会社に発注し、商品の計量、充填、封入は同社で行っていた。包装資材を無駄にしないためには、袋印刷から包装までをワンストップで自社生産するシステムが不可欠だった。



□本社所在地／静岡市駿河区高松1-14-7
□設立／平成9年
□資本金／10,000,000円
□従業員数／約50人
(パート・アルバイトを含む)

<http://www.arum.ne.jp>

袋印刷と包装が連動して行われる画期的な包装システム

開発新製品
新技術



INNOVATION



スティック自動充填包装機FC80型計量装置

顧客の要望に応える 革新的包装システムの開発にチャレンジ

本事業では、サプリメント、ドライフルーツ、ナッツ類菓子などのPB商品分野向けに、欲しい分だけワンストップで自社生産し、より正確な計量を実現させる革新的な包装システムの開発に挑戦。構想から完成まで約3年。その間、機械メーカーと連携し、機械の選定や作動バランスの検証、テスト運転を重ねた。

新たなシステムでは、コンピュータ制御で必要数を設定し、パッケージ印刷と同時に商品を計量、充填、シールなどで封入する。すなわち袋印刷と包装が並行して行われるシステムだ。多品種小ロット商品生産への対応が可能となった。

また、計量機に関しては秤型のフィーダー式計量機と、体積や比重なども勘案して計量する桁型のスライド式マス計量機の2種を装備。粉末、顆粒、玉状などのさまざまな形状の商品を最少誤差で計量することに成功した。

CHALLENGE



初の自社ブランド製品「PLUS TOPPING」全7品

本システムのメリットを発揮 自社ブランド製品「PLUS TOPPING」

本システムを使って何ができるか？消費者やバイヤーが何を望んでいるか。顧客に説得力あるアプローチをするためにも、まずは自社ブランド製品の開発に取り組んだ。

「今流行りのスーパーフードに着目。値段が高いので気軽に手を出せないがちょっと試したいというニーズにこのサイズがピッタリでした」と話す澤野取締役。使い切りサイズでお手頃価格の「PLUS TOPPING」は今年5月から大手スーパーの店頭に出始めている。売れ行きは好調のようだ。

また、ニーズの移り変わりが速いこの業界では、欲しい分だけワンストップで生産できる本システムのメリットが最大限に発揮できる。

ものづくり補助金の効果について澤野取締役は「厳しい審査に通ったことで自信を得たことはもちろん、弊社を訪れるお客さまも新しい設備を見て、会社として前向きな姿勢を評価してくださいます」と笑顔で語った。